Before

かかつてはキッチンが壁で仕切られ、小窓はあるものの、暗く寒く、圧迫感のある場所でした。お子様もいて4人で暮らしていても、それぞれが家の中で何をしてるか、奥様は分かりにくい状態に。

ロールカーテンの配色の選考に何日もかけて、納得のいく色を選び抜きました。奥様がタペストリーにもなるようにと選んだ"葡萄色"が、上品な和の風合いをぐっと高めます。全開、半閉じ、全閉じで部屋の表情が変わるところに面白味があります。

リビングには、使い方の自由度が高い畳ルームを設置。普段はのびのびと寝転んだりできる寛ぎ空間として。また、お子様の帰省時などには客用の寝室としても利用可能。そのために、天井からロール3本で間仕切り出来るようにしました。

リノベーションで強まる夫婦の絆

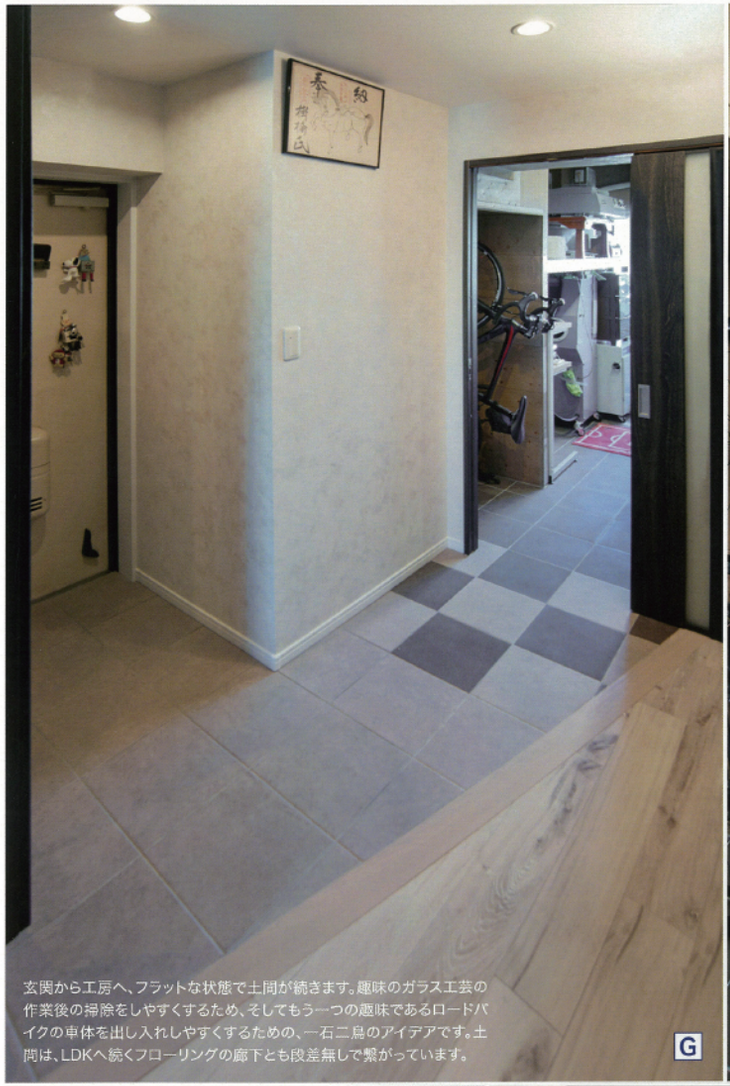
「これからの主役はわたしたち夫婦。だから、今まで以上に明るくのびのびと暮らしたい!」

テーマと概要

娘さん、息子さんと、二人のお子様が親元から独立していったことを機に、リフォームを考えはじめたというK様ご夫婦。当初は、使い込んだ既設品を新調できればいいという程度でしたが、これからはご夫婦自身の「私たちらしさ」を第一にしたいとの思いが膨らみ、間取り変更も含めた大胆なリノベーションに発展しました。ご夫婦のライフスタイルに合わせた空間デザインに、独自性のある機能を付加させたリノベーションです。

DATA

所在地：安城市　　リフォーム前の延べ面積：83.43㎡
築年数：25年　　リフォーム後の延べ面積：83.43㎡
建て方：共同建　　リフォーム部分の面積：83.43㎡
構造：RC造　　工事期間：1.5ヶ月
階数：6階建　　工事完了年月：平成28年12月
（当該住戸は3階）



玄関から工房へ、フラットな状態で土間が続きます。趣味のガラス工芸の作業後の掃除をしやすくするため、そしてもう一つの趣味であるロードバイクの車体を出し入れしやすくするための、一石二鳥のアイデアです。土間は、LDKへ続くフローリングの廊下とも段差無しで繋がっています。

G

素材感むきだしの合板材で造作した棚類が、工房全体にガレージ風の無骨なビンテージ感を醸し出しています。ここで使われる機械は、専門業者も使う工業用機器の数々。そしてテラスにはコンプレッサー。すべてご主人が趣味のために買いそろえました。

H

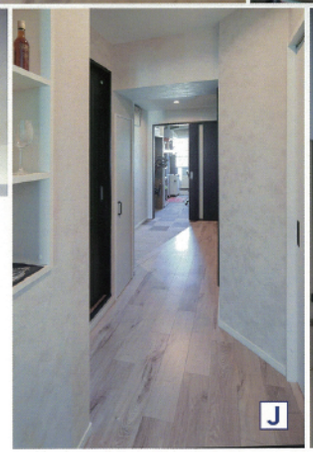
畳ルームは、全面を収納スペースとして使えます。畳を簡単に外すことができ、その下には全面を6分割した収納スペースが、たっぷり用意されています。→

L

オーディオにこだわりのあるご主人自身が、リビングの音響設計を買って出ました。美しい音楽、迫力の映画サウンドが、二人のコミュニケーションをより円滑にしてくれます。↓

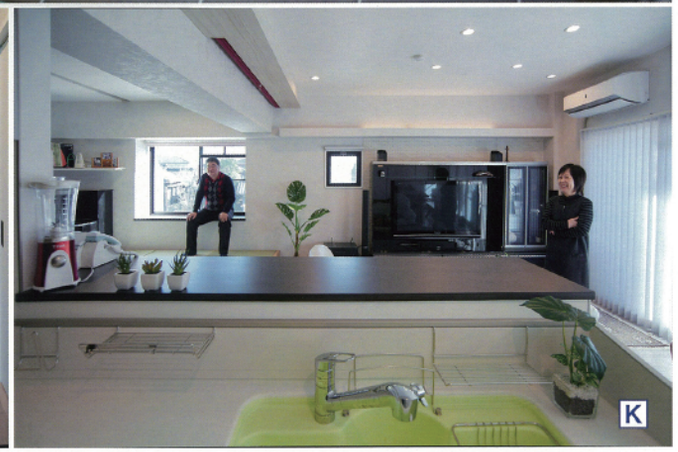
I

↑ ご主人が約10年前に趣味として始めた「ショットブラスト」は、ガラスの表面に微細な粒体を噴射して絵を描くガラス工芸。フロアに設けたニッチ棚に様々な作品が展示されます。普段の仕事の忙しさからちょっと離れるつもりが、工房に何時間も篭もって没頭することもしばしば。「職場の仲間や知人から作ってと言われると張り切っちゃって」とご主人は嬉しそう。



J

キッチンと工房、ご夫婦それぞれの居場所を遮るものなく一気に繋ぐフロア。空気の抜けを良くするのと同時に、お互いの気配を感じ合えるようにするための工夫です。 →



K

M

N

O

← リビングとダイニングの全体を見渡せるキッチンからの眺め。ここら左を向けば、工房の様子もうかがえます。ご夫婦の居場所が分断されることなく、一体感と開放感を両立した空間となりました。自然光がたっぷり入ることも、お二人は大満足。